



芸術文化振興基金助成事業
第27回中四国文化の集い

次代につなぐ
先人の智慧と技

明治維新150年を迎えた山口県に、中四国9県の
郷土芸能が集結！
各地の歴史と風土から生まれた芸能を、堪能下さい。

中四国 郷土芸能 フェスタ 2018 in 山口



愛媛県 太鼓集団 魁

鳥取県 高城 牛追掛節保存会



山口県 山口驚流狂言保存会



岡山県 大原踊り保存会



高知県 シットロト踊り保存会



広島県 日東流吟剣詩舞道 広島剣友会



鳥取県 益田市 石見神楽神和会

香川県 和田雨乞踊保存会



山口県 大波野神舞保存会

徳島県 人形/名月座 太夫三味線/友和嘉会



2018
10.21
入場料 無料 日

10:30 ~ 16:10 (予定) 10:00 開場

場所 山口県立劇場 ルネッサながと
〒759-4106 山口県長門市仙崎818番地1

主催 (公財)長門市文化振興財団、中四国9県
山口県伝統芸能保存会連絡協議会

お問い合わせ
☎0837-26-6001
<https://www.renaissance-nagato.jp/>



出演団体紹介

鳥取県

高城 牛追掛節保存会 (倉吉市指定無形民俗文化財)

牛追掛節の起源は、大阪城築城時とする説があり、かつて日本三大市と称された大山牛馬市で売買が成立した祝宴や、道中牛馬を牽く折この唄が愛唱されたという。しかし、時代の変遷に伴い市は廃れ、この唄も埋もれていった。高城に伝わる牛追掛節が明確に記録として留められたのは1928年(昭和3年)、東京開催の全国郷土舞踊民謡大会。当時唯一ひとりの継承者に指導を受けた青年が披露し、高城の牛追掛節は継承された。昭和30年代に保存会設立。その後の存続危機を乗り越え、2003年(平成15年)に5人で再起した保存会は、子牛役などに起用した子どもを含めて18人に増え、現在は後継者育成に取り組んでいる。



島根県

益田市石見神楽神和会

1982年(昭和57年)、「益田市石見神楽互助会」として市内9団体によって設立されたのが発端。子ども神楽団の育成や益田地域の伝統文化を伝承するため、地域の秋の大祭や市内内外での公演を行い神楽の里づくりに努めてきた。1992年(平成4年)に「益田市石見神楽神和会」と名を改め、現在では、益田市内の12神楽団体から構成されており、益田市を代表する文化、伝統である「石見神楽」の継承・発展に努めている。近年では国内だけでなく海外公演も成功させ、日本だけでなく世界に向け、石見神楽のPRに努めている。



岡山県

大原踊り保存会 (里庄町指定無形民俗文化財)

里庄町の大原地区に古くから伝えられている踊りで、起源は約400年前に戦で亡くなり、亡霊となって現れた人々を供養するために始まったと言い伝えられている。現在は毎年8月15日に町内にある戦没者慰霊碑の前で、また8月16日は霊山寺というお寺の境内で「踊り供養」をしている。このように古い歴史をもち、町民にも馴染みが深い郷土芸能であるため、今後も保存伝承の支援に努め、後世に伝えていく保存活動に努めていく。



広島県

日東流吟剣詩舞道 広島剣友会

初代宗家・会長「相原勝雄」先生が、会創設以来50有余年の歴史がある。活動範囲は、広島市を中心に、東は三原市から西は山口県岩国市まで教室を開設し、様々な行事に参加している。広島剣友会には、3部門がある。1部門目が「居合」。これは岩国領主・吉川広正の客分となり居合術を指南した「片山伯耆守久安」によって開かれた武術を継承しているもの。2部門目、3部門目が、詩吟に合わせて舞う、「剣舞」「詩舞」。「剣舞」「詩舞」共、「日舞」と違い袴を着用し、剣舞に於いては「日本刀」、詩舞に於いては「扇」を持ち舞いを行う。



愛媛県

太鼓集団 魁

鬼北町(旧広見町)がふるさと創生事業の一環として和太鼓を購入し、事業を展開。師はプロ集団「太鼓集団天邪鬼」代表の渡辺洋一氏。(公財)日本太鼓財団1級公認指導員、文化庁特別顧問、文化交流士、関八州太鼓連合会長、東京都太鼓連合会長。鬼北町を拠点として、県内外のイベントに参加。年間の主な活動は、鬼北町最大のイベントである「でちこんか」である。前夜祭の邦楽ライブに出演、近年では鬼のお太鼓コンテストのホスト団体として、会場を盛り上げる役割を担っている。地域に根差した行事として、子どもの健やかな健康と幸せを祈願する「子泣かし天狗まつり」を毎年1月に行っている。1990年(平成2年)2月に設立、今年で28目を迎える。



香川県

和田雨乞踊り保存会 (香川県指定無形民俗文化財)

始まりには諸説あるが、慶長年間、豊田郡和田村(現、観音寺市豊浜町和田)で薩摩法師が歌詞を作り、踊りを教えて雨乞いをさせたという説が有力である。江戸時代には盛んに行われていた雨乞行事も、明治に一時中断された。1914年(大正3年)の奉納を経て、1972年(昭和47年)に保存会を結成し、現在に至っている。小歌に合わせて踊る「風流小歌踊」に属し、別名「雨花踊」とも呼ばれ、全演目には4時間を要する。1978年(昭和53年)に香川県指定無形民俗文化財となる。



徳島県

人形/名月座 太夫・三味線/友和嘉会

1993年(平成5年)、せめて阿波唄だけでも身につけてボランティアを始めたい、満月のように丸い心で人間的繋がりを大切にしたいと女性6名で結成。結成された9月にちなみ「名月座」と名付けた。積極的に施設の訪問を行うと同時に、阿波の伝統文化の継承と底辺の育成や広がり求め、幼稚園や小学校の児童、徳島文理大学生の指導に力を注いでいる。2008年(平成20年)には、親しみやすい内容で、子どもたちが無理なく3人遣いを体験できるよう、小ぶりで軽い子ども用の木偶(太郎・花子)を製作。体験を通して3人が力を合わせて一つのことを達成することの楽しさを学んでほしいと願い、継続的に体験活動を実施している。2012年(平成24年)から、おめでたい演目「恵比須舞」の上演を始め、イベントや慶事などの席で福を届けている。



高知県

シットロ踊り保存会 (高知県指定無形民俗文化財)

1913年(大正2年)に設立され、漁業で栄えてきた室戸の歴史を後世に継承していくことの重要性を認識し、活動している。「シットロ踊り」は、地元の漁業関係者が、魚の供養と豊漁祈願のために、早朝から夕方まで室戸市内にある神社仏閣などおよそ30箇所を踊り巡っていくもので、旧暦の6月10日に行われる。この踊りは1963年(昭和38年)に県の無形民俗文化財に指定されている。



山口県

大波野神舞保存会 (山口県指定無形民俗文化財)

1980年(昭和55年)に保存会を設立。大波野地区290戸の全員で運営している。保存会の実行委員会が、実際に活動する実行機関としてある。1983年(昭和58年)に田布施町の無形民俗文化財に、2000年(平成12年)に、山口県の無形民俗文化財に指定され、現在に至る。



山口県

山口鷺流狂言保存会 (山口県指定無形文化財)

江戸時代の狂言には、大蔵・鷺・和泉の3流があった。しかし、明治維新によって徳川幕府が崩壊したことで後継者が失われ、大蔵・和泉の2流は復興したものの鷺流は中央では途絶えた。その中で、山口では萩藩の鷺流の流れを今日まで伝承している。1967年(昭和42年)に山口県の無形文化財指定第1号となり、現在は米本文明氏が無形文化財技術保持者として中心となり、次代への継承に努めている。

